

平成 22 年 9 月定例会 産業経済委員会 10 月 6 日

◆帆苅謙治委員 おはようございます。1 点だけ聞かせていただきます。私が県議会の議長をさせていただいているときに、豊島園で新潟フェアが開催されました。物販もありましたが、県産食材を使ったメニューの提供もあり、55 日間、2 か月近く行われました。観光局長から報告を受けましたが、当初の試算よりも 1.6 倍とか、1.7 倍の売り上げがあったということです。今後は通信販売というのでしょうか、新潟県のいろいろな食材等の売り上げも伸びるだろうと期待されているということですが、これは当然のことだと思います。

しかし、いちばん大きな効果は、西武グループとのつながりです。ホテルをはじめとした同グループと新潟県の食材や米の直接取引ができると。こういう商談もまとまりつつあるやに伺っております。知事も新潟フェアのオープニングセレモニーに行かれましたし、私も同席させていただきました。株式会社西武ホールディングスの社長もお見えでございましたけれども、そういうつきあいは本当に大事なのだなと思えました。西武グループとの協定が締結されたようではありますが、一連の流れについて、簡単に説明していただけますか。

◎長谷川誠副部長(産業労働観光部) 西武グループを統括する西武ホールディングスと新潟県は 9 月 11 日に連携協定締結を知事と社長との間で署名いたしました。その経緯という御質問でありますけれども、委員からの御指摘のとおり、6 月 1 日から 7 月下旬まで豊島園で開催された新潟フェアで、当初のもくろみよりも相当程度の反響や売り上げがあったということが直接のきっかけであります。

それから、県としては、来年 1 月に日本スキー発祥 100 周年を迎えるということで、元祖スキー天国ということで売り込みや PR を積極的にやりたいと。それに対して西武グループは、苗場プリンスホテルや苗場スキー場など県内に四つのスキー場がありますが、昨年度、利用客の入り込みが落ち込んだスキー観光を何とか活性化したいと。また、新潟県という地の利を考えたときに、今年の 6 月に中国総領事館が開設され、中国からのインバウンドが相当期待できます。また、豊島園での新潟フェアでも日本酒をはじめ、相当反響があり、評判がよかったということをお案しまして、6 月のオープニングセレモニーから直接知事と社長、あるいは副知事と、いろいろと話し合いの機会がございました。それらを総合的にまとめ上げていこうということで、9 月 11 日の連携協定締結に至りました。これから、実務的にいろいろなレベルでの物産振興、新潟

清酒の売り込み、あるいは燕・三条地域の金属洋食器をはじめ、作業工具を含めて、いろいろな形で西武グループを通じた販路拡大につなげていきたいと考えております。

◆帆苅謙治委員 これははっきり言って、成功例なのだと思います。東京事務所、大阪事務所もある中で、県では、こういうイベントなどは昨年、あるいは今年、どの程度実施して、どのような成果があったのでしょうか。

◎長谷川誠副部長(産業労働観光部) イベントというのは、いろいろな物産展ということかと思いますが、恐れ入りますが、手元に資料はございません。全国的に御当地もの、本物の品質のもの、それから手作りのものが注目されておりますので、当初のもくろみプラスアルファの成果を上げているというように、ムードとしては感じているということが答えになろうかと思います。

◆帆苅謙治委員 こうしたイベントというのは、はっきり言うてもうかるものではなく、どれだけ新潟県の食材、あるいは特産品を知らしめることができるか、今後、どう展開されるかということだと思っております。したがって、フォローアップをいかに大事にしていくかということだと思っております。あまり興味がなかったと言え失礼でございますが、たまたま西武グループの前社長のお母さんの地元が私の地元だったり、私の知り合いもいましたので、そのように思うのかもしれませんが、自分たちの商売のためにイベントを行うのであれば、それぞれの会社の自助努力が非常に重要であります。新潟県のかかわりとして、どれだけフォローや協力ができるかということも大事なことです。知事や私などというのは、ある程度整ったところに行って、格好つけといいますか、いちばんいいところに出ているのです。観光局長や課長など、直接汗をかいている人間は大勢います。

そういった中でも、一つのイベントを実施するのに、例えば東京でのフェアでもいい、大阪でのフェアでもいい、新潟の物販あるいは特産品を売る。こういうイベントの企画立案などについては、当然県も関与するのですが、それに深く携わる人間、中国には、水を飲むときには井戸を掘った人を忘れないという言葉があります。中国の人は、井戸を掘った人は大事にしなければならないと言います。私は今回の西武グループとの連携協定締結を見ても、豊島園の外郭団体の統括のような立場の役員のかたが、非常によくやってくれたと思

うのです。そういう人とのつながり。新潟県を何とか盛り上げようと本当に頑張ってくれた人と、産業労働観光部長でも、観光局長でも、課長でも、今後もつきあいをしていく必要があるのだと思います。例えば、こちらから行くとか、県庁に来ていただくとかという継続的なつきあいが非常に大事だと思うのです。その辺をどのようにお考えでしょうか。

◎高井盛雄産業労働観光部長 イベントなど、県の事業に御協力していただけるかたということでございます。私どももさまざまなネットワークを持っておりますけれども、それだけでは足りないところでは、今までの経験の蓄積でありますとか、情熱でありますとか、そういったものをお持ちのかた、キーパーソンが大変重要であると思います。私どももそういうかたを頼りにして実施している事業はたくさんございますので、そういったかたとのつながりをより強くしながら、さまざまなことに取り組んでいく、また、提案を受けていくというようなことは大変重要であると思います。これからも大事におつきあいをさせていただきまして、感謝の念を持ちまして、私どもも提案する、また向こうからも提案していただき、ウィン・ウインの関係で、今後ともいい方向に展開するように進めてまいりたいと考えています。

◆帆苅謙治委員 苗場スキー場を中心としたスキー観光の活性化については、今回、西武グループは本気でやる気になっているやにお聞きしております。何とか地元や県と連携して頑張っていたいただきたいと思います。今ほど部長から答弁いただきましたが、井戸を掘った人というのは新潟県の大きな財産だと思います。今はどうなっているのか分かりませんが、昔は、産業団地への企業誘致を仲介した場合に、幾らか差し上げるような制度がありました。そんなにお金をかける必要はないけれども、協力者ということで、知事名でもいいし、産業労働観光部長の名前でもいいですが、感謝状でも名誉に思う。そして、今後も頑張ろうという人が大勢出てくると思うのです。そういうことも考え合わせながら、進めていただければと思います。